

業績のハイライト(個別)

平成18年3月期決算の概要について

当行では、中期経営計画「ステップ・アップ・プランⅡ」に基づき、業容の拡大と財務基盤の強化に努めてまいりました。

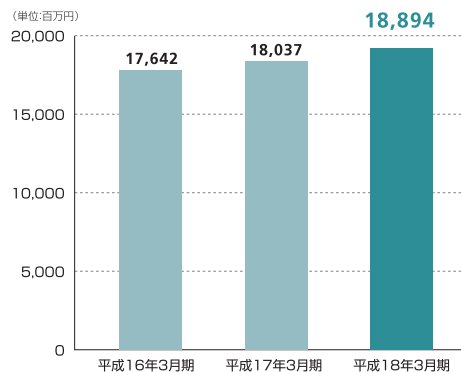
主な経営指標等の推移は次のとおりです。

	平成16年3月期	平成17年3月期	平成18年3月期
経常収益	17,642百万円	18,037百万円	18,894百万円
経常利益	599百万円	1,885百万円	2,439百万円
当期純利益	579百万円	1,286百万円	1,444百万円
業務純益	3,270百万円	3,692百万円	3,343百万円
コア業務純益	2,780百万円	3,481百万円	3,343百万円
預金・譲渡性預金残高	7,209億円	7,173億円	7,408億円
貸出金残高	5,005億円	5,006億円	5,043億円
有価証券残高	1,756億円	1,816億円	1,962億円
自己資本比率(単体)	8.00%	8.33%	8.69%

経常収益について

経常収益は188億94百万円(前年同期比4.7%増)となり、2期連続で増加しました。経常収益の増加要因は、貸付金利息やコールローン利息の増加、株式等売却益の計上などによるものです。

●経常収益

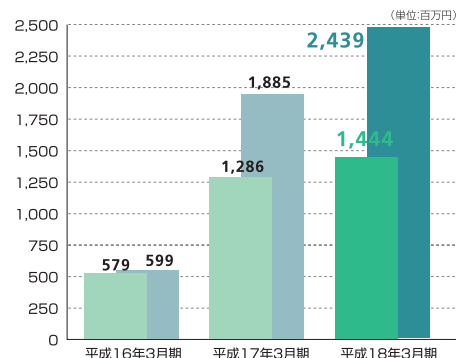


経常利益・当期純利益について

経常利益は24億39百万円(前年同期比29.3%増)、当期純利益は14億44百万円(前年同期比12.3%増)となり、いずれも2期連続の増益となりました。経常利益と当期純利益は、コア業務純益の減少や貸倒償却引当費用の増加がありましたが、株式等売却益を計上したことなどにより増益となりました。

●経常利益 当期純利益

■ 経常利益
■ 当期純利益

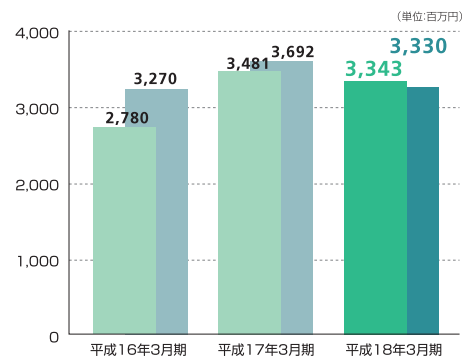


業務純益・コア業務純益について

銀行本来の収益力を表すコア業務純益は33億43百万円(前年同期比3.9%減)となりました。コア業務純益は、経費削減に努めたものの、市場金利の上昇に伴う資金調達費用の増加により資金利益が減少したことなどから減益となりました。

●業務純益 コア業務純益

■ 業務純益
■ コア業務純益

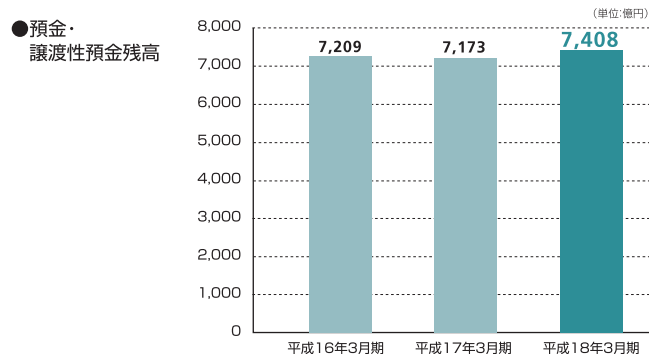


※コア業務純益とは、業務純益から一般貸倒引当金繰入額および債券売買等の損益を控除した金額をいいます。

業績のハイライト(個別)

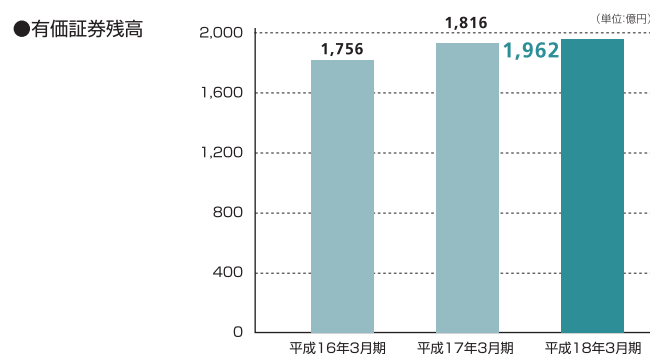
預金・譲渡性預金残高について

預金・譲渡性預金残高は、主力の個人預金が期間限定の新型預金「ワンダブル1」の取扱いなどにより堅調に推移し、7,408億29百万円(前年同期比3.2%増)となりました。



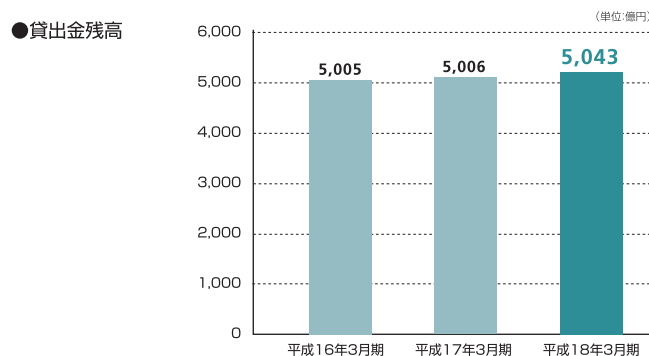
有価証券残高について

有価証券の残高は、1,962億36百万円(前年同期比8.0%増)となりました。市場動向等を勘案し、リスクの分散を図りながら、資金の効率的就安定した運用に傾注しました。



貸出金残高について

貸出金残高は、中小企業向け貸出や住宅ローンが減少したものの、地方公共団体向けの貸出等が堅調に推移し、5,043億62百万円(前年同期比0.7%増)となりました。



自己資本比率について

自己資本比率(国内基準・単体)は、前年同期比0.36ポイント上昇し8.69%となりました。

